

電子書籍のメリットを活かした、新しいサービス・連携づくりへ ～システム、コンテンツ、そして地域貢献～



札幌市中央図書館（北海道札幌市） <http://www.city.sapporo.jp/toshokan/>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	札幌市中央区南22条西13丁目
電話番号	011-512-7320
人口（図書館が所在する市町村）	1,933,789人
職員数（うち有資格者数）	153人（69人）
蔵書数	2,540,907冊
登録者数	707,608人
年間貸出冊数（H24）	7,243,740冊

目的・趣旨

電子書籍は知の拠点である図書館が積極的に取り組むべき課題である。システムの機能向上、コンテンツの調達という課題をクリアしながら、電子書籍の特性を活かし、図書館の新しいサービスや役割を考え、実現につなげていく。

取組概要

1. 新電子図書館システムの設計・開発
2. コンテンツ調達
 - (ア) 地元出版社への働きかけ
 - ① H23 「電子図書館実証実験」
 - ② H24 「さっぽろ電子書籍流通検討会」発足
 - ③ H25 「一般社団法人北海道デジタル出版推進協会」設立
 - (イ) 図書館が所有する行政資料、地域資料の電子化
 - (ウ) 市民や団体の参加による独自（地域）資料づくり
3. 電子書籍の特性を活かした地域貢献（学校連携）
4. 利用者参加、PR
 - ・ H23 「電子図書館実証実験」に市民モニター450名以上が参加
 - ・ H26 「電子図書館コーナー」開設
5. 図書館どうしの連携
 - 「電子図書館サービスにおける図書館連携」研究会発足



【電子図書館体験コーナー】

特徴

1. 新システムのポイント
 - ・ 幅広く端末機器に対応（パソコン、タブレット、スマートフォン）
 - ・ 幅広く電子書籍フォーマットに対応（PDF, ePub3, .book等）
 - ・ 高齢者にも優しいシステム（JIS x8341準拠）
 - ・ 図書館員が制作した独自（電子）資料を自ら送信し、登録可能
 - ・ 図書館の基幹システムとの連携（紙と電子のハイブリッド検索等）
2. コンテンツ調達
 - (ア) H23 実証実験に16社が参加、200冊提供
H24 検討会で契約ルールの検討等
H25 協会設立（札幌・北海道コンテンツの調達窓口）
 - (イ) 行政や地域の団体が発行したもの（数百点）の電子書籍化（歴史、文化に関するもの等）
 - (ウ) 「まち図鑑」（中学生による出版体験プロジェクト）の電子版作成、市民電子書籍作成講座など
3. 学校連携～学校の授業と図書館の蔵書を【「まち図鑑」】結び付ける実験
 - ・ H23 図書館公開モデル事業（電子教科書と蔵書検索の連携）
 - ・ H24 調べ学習に電子資料を利用（小学校）、電子書籍体験ウィーク（中学校）
 - ・ H25 「タブレット端末を活用した授業に関する研究事業」（小学校）
（デジタル教科書、用語解説、電子書籍、蔵書検索の一体化）
4. 電子書籍の提供について「希望する」が約7割、「希望しない」が約1割であったが本の種類など条件が整えば利用するという意見が多数
5. 「電子図書館サービスにおける図書館連携」研究会発足（江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、札幌市）
 - ① システムの共同利用、② コンテンツの共同調達、③ 地域資料の相互利用を段階的に検討



【「まち図鑑」】

取組の成果と今後について

システムについては、高齢者を含めた誰にでも優しい操作性を実現したほか、パソコン、スマートフォン、タブレット端末など幅広い読書機器に対応できた。また、電子書籍のジャンル、冊数確保は出版社とともに契約ルールを検討し、安定的に電子書籍を調達できる仕組みを研究した。さらに、市内の小中学校で図書館から提供した電子書籍を授業で使用し、その有効性も確認できた。今後は「いつでも、どこでも本を借り、返せる」というメリットを活かし、図書館の新たなサービス提供に向けてさまざまな実現を図っていく。